

5) 2010年2月 東京都体育協会スポーツ指導者協議会 3

周年記念式典 30周年記念「功労賞」

## II. 研究業績

著者名

論文、研究等の題目

発行所・発表雑誌または発表学会等の名称

概要

### 1. 山田龍彦

「スウィング診断」

ティーテニス、1978年5月号、学研、1978年

1) 1978年5月号35ページ～40ページ

題目 連続写真においてフォームのチェック

概要 初心者2名・中級者1名・上級者2名で実施スウィング

の解説を行なう。ポイント矯正を写真において実施。

### 2. 山田龍彦

「誌上レッスン」

ティーテニス、1979年6月号,7月号、学研、1979年

1) 1979年6月号48ページ～50ページ

題目 バックハンドストローク **BEFORE&AFUTER** の比較

初心者5名のスウィングを連続写真にて解説していく。

5名の重要なポイントを2箇所について修正していく。

2) 1979年7月号48ページ～50ページ

題目 ボレー&サービスの **BEFORE&AFUTER** の比較

上級者2名のスウィングを連続写真にて解説していく。

上級者のテクニックとしての注意点を解説していく。

概要 題目ごとのテクニックを連続写真によって誌上レッスンを行なっていく。**BEFORE&AFUTER**での違いを究明する。

3. 山田龍彦

「テクニックノート」

ティーテニス、1980年6月号、学研、1980年

1) 1980年10月号70ページ～73ページ

題目 ボレーのテクニック

テニスコーチをパートナーとして使用して自らが模範演技を写真において、細かいテクニックの違いを出し

ている。連続写真を使用することで大切な部分を掘り下げて解説している。

概要 ボレーテクニックをいろいろな角度で解説をしていく。

#### 4. 山田龍彦

「首都圏テニスコーチ会第1回テニス指導者セミナー開催」

ティーテニス、1983年12月号、学研、1983年

##### 1) 1983年12月号80ページ

題目 コーチ会主催のテニス指導者セミナー開催の内容紹介

1979年有志5人とコーチ会をスタート。1982年に会員数25名となり、「首都圏コーチ会」と改称し、本格的にテニスコーチとしての組織活動を行なう。第1代議長として組織作りに力を注ぐ。

<活動内容>

- ① 会員の資質向上の勉強会
- ② 講師経験のための研究発表会開催
- ③ 公認指導者制度受験のための新会員の勉強会
- ④ 日本テニス協会行事に対するボランティア活動
- ⑤ テニス普及活動のクリニック指導員派遣

⑥ 関東及び全国コーチ会設立に向けての準備活動

⑦ 8つの分科会活動と5つの専門チーム委員会活動

5. 山田龍彦

「オーソドックステニス入門」

ティーテニス、1984年4月号、学研、1984年

1) 1984年4月号69ページ～71ページ

題目 テニスの基礎知識（ラケット、ボール、コート、ラケットティング）

2) 1984年4月号72ページ～73ページ

題目 フォアハンドストロークグリップ

種類と握り方、ミニラリーでのグリップの慣れと手のひらのまめでグリップを判断

3) 1984年4月号74ページ～75ページ

題目 グランドストロークフォアハンドの基本スウィング

テイクバック・フォワードスウィング・インパクト・フォロースルー・フィニッシュの注意点

4) 1984年4月号76ページ・81ページ

題目 グランドストロークバックハンドの基本スウィング

テイクバック・フォワードスウィング・インパクト・  
フォロースルー・フィニッシュの注意点  
確実スウィング習得の3段階

5) 1984年4月号82ページ～83ページ

題目 サービスとスマッシュ

サービスとスマッシュは同じフォーム

サービスの基本フォームの解説

スタンス・ポジション・スウィングバランスについて

6) 1984年4月号84ページ～85ページ

題目 フォアハンドボレー

フォアハンドボレーの基本フォーム

4つの注意点、昆虫網で虫を捕まえるように

7) 1984年4月号86ページ～87ページ

題目 バックハンドボレー

バックハンドボレーの基本フォーム

スウィングⅠとスウィングⅡ

フットワークとリズム

概要 テニスの基本技術を細かく分類して解説していく。

4月号は延べ15ページにおよび初心者から上級者  
までが基本を確認できるように技術解説を行なっ  
ている。

## 6. 山田龍彦

「続 オーソドックステニス入門 実践編」

ティーテニス、1984年5月号、学研、1984年

### 1) 1984年5月号69ページ～71ページ

題目 グランドストロークの球質

(フラット・スライス・ドライブ・トップスピン・チ  
ョップ・カット・ムーンボール)

各ショット別に写真にて解説し注意点を指摘

### 2) 1984年5月号72ページ

題目 ロビングショット

ロビングショットの種類解説

### 3) 1984年5月号73ページ

題目 アプローチショットとドロップショット

3つのアプローチショットの注意点

ドロップショットの打ち方

4) 1984年5月号74ページ～75ページ

題目 ライジングボールとリターン

コンパクトなスウィングと2拍子のリズム

リターンの注意点とそのフォームの解説

5) 1984年5月号76ページ

題目 ショートクロスと順クロス・逆クロス

打ち方とその特徴を解説

6) 1984年5月号81ページ

題目 パッシングショット

パッシングショットとの4つの注意点と打ち方の解説

7) 1984年5月号82ページ～83ページ

題目 ボレーの上級テクニック

アングルボレーの打ち方

ドロップボレーの打ち方

マスターするための基礎練習と注意点

8) 1984年5月号84ページ～85ページ

題目 スマッシュとサービス

スマッシュを決めるにはテクニックが必要

サービスと同じフォームなので種類はいろいろある

スライスとスピンのマスター方法

9) 1984年5月号86ページ～87ページ

題目 サウスポーと利点と攻略法

相手がサウスポーのときの攻撃方法

サウスポーはやな相手になるからそれを生かす方法

概要 実践で使うテクニックを細かく分析し、その技術を項

目ごとに解説し、使用上の注意点を記載している。

2. 山田龍彦

「オーソドックステニス 第3弾 シングルス必勝パターン

23」

ティーテニス、1984年6月号、学研、1984年

1) 1984年6月号67ページ～69ページ

題目 グランドストローク戦の展開

必勝パターン1～5

2) 1984年6月号70ページ～71ページ

題目 ベースライン戦でドロップショットを有効に使う



必勝パターン1～6

3) 1984年6月号72ページ～73ページ

題目 アプローチ&ボレーの展開 その1

ネットにつめる時の注意点

必勝パターン1～2

4) 1984年6月号74ページ

題目 アプローチ&ボレーの展開 その2

相手からの返球を予測する

必勝パターン1～2

5) 1984年6月号79ページ

題目 レシーブ&ボレーの展開

レシーブ・ダッシュはアプローチの要領で

必勝パターン1～4

6) 1984年6月号80ページ～81ページ

題目 ロブからの攻撃

ロブの使い方と打ち方の注意

必勝パターン1～3

7) 1984年6月号82ページ～83ページ

題目 サーブ&ボレーの展開 その1

ネットにつめることの心理的優位性とそのつめ方について

必勝パターン1～2

8) 1984年6月号84ページ～85ページ

題目 サーブ&ボレーの展開 その2

サーブの種類が多いほうが良いし、回転がかかっていた方がネットにつめる時間ができ、安定性が良い

必勝パターン1

概要 シングルスゲームにおけるテクニックとそのパターン

を23項目に分けて解説している。6月号は延べ15ページにわたり解説を進めている。

3. 山田龍彦

「ネットプレーで勝て！」

スマッシュ、1986年8月号～1987年3月号、

日本スポーツ出版社、1986年、1987年

1) 1986年8月号84ページ～85ページ

8月号テーマ「サービス&ダッシュ」

題目 サービス&ダッシュに適したサービス

サービスの種類はスライスとスピン

サービスをうちコースは相手のバックハンド側

2) 1986年8月号86ページ～87ページ

題目 スライスとスピン、その基本と相違点

スタンス・腰の回転・トスアップが全く違う

3) 1986年8月号88ページ～89ページ

題目 スピンサービスのラケットワークをマスターする。

スライスとの比較はこんなに違う

テイクバックはラケットヘッドがしっかりと下がる。

インパクトの力強さはラケットの振りぬき

フィニッシュで親指が体に触れるように

ボールの回転は正反対である。

4) 1986年9月号92ページ～93ページ

9月号テーマ「アプローチ&ダッシュI」

題目 アプローチへでるためのポジション

アプローチエリヤを作ること！そして、広げる。

アプローチエリヤを横にさらに3分割して考える。

何処に打ったら効果的か。

5) 1986年9月号94ページ～95ページ

題目 アプローチ&ダッシュ後のポジション

シングルスは一人で守らなくてはいけない、そこで  
ネットにつめる位置が大切。

順クロスからのポジション

逆クロスからのポジション

6) 1986年9月号96ページ～97ページ

題目 リターン&ダッシュの予備知識

サービスの回転は縦回転、ストロークの回転は横回  
転、スライスサービスとスピンサービスは正反対  
ストロークのスライスとスピンも正反対である。

7) 1986年10月号76ページ～77ページ

10月号テーマ「アプローチ&ダッシュⅡ」

題目 なぜ、チョップショットになるのか

アプローチもストロークスライスも同じグリップ  
を使う。

テイクバック・フォワードスイング・インパクト・  
フィニッシュの注意点

8) 1986年10月号78ページ～79ページ

題目 正しいスライスをマスターする

リストワークの使い方

インパクトでの面・フォロースルーを十分に

インパクトのリストワークはキーアクション

9) 1986年10月号80ページ～81ページ

題目 アプローチショットの基本と注意点

ネットにつめながら打つアプローチ

ランニングショットとは違うアプローチ

完了の合図はスプリットステップ

10) 1986年11月号84ページ～85ページ

11月号テーマ「ボレーI・ローボレーを中心に」

題目 ローボレーはアプローチのつもりで

サーブスダッシュではボレーエリアに入れない

ローボレーが苦手なのは練習量が少なすぎる

ネットより低い位置で打つローボレーは面が軌道に  
垂直に当たらなくては返らない

1 1) 1 9 8 6 年 1 1 月 号 8 6 ページ～8 7 ページ

題目 ローボレーを行なう状況と目的

スプリットステップの後は3つのステップで

(前へのステップ・クロスステップ・オープンステ  
ップ)

ボールをラケット面の後ろから見るように

1 2) 1 9 8 6 年 1 1 月 号 8 8 ページ～8 9 ページ

題目 ローボレーに深さと回転を与える

リストワークと膝の使い方

膝を運ぶことで深いボールが打てる

1 3) 1 9 8 6 年 1 2 月 号 6 8 ページ～6 9 ページ

1 2 月 号 テーマ「ボレーⅡ・ウイニングボレー」

題目 ポイントを狙うためのボレー

オープンコート見極めを早くする

ボレーの選択をしてどのボレーが効果的か考える

ハイボレー・ミドルボレー・ローボレー・アングル

ボレー・ドロップボレー・ロブボレーなどの選択

14) 1986年12月号70ページ～71ページ

題目 アングルボレー、ハイボレー

グリップがコンチネンタルでないといけないテクニック、それは、リストワークの自由な動き

15) 1986年12月号72ページ～73ページ

題目 ドロップボレー、ミドルボレー

ローボレーとドロップボレーの違い

ドロップボレーのリストワーク

ドロップボレーに角度をつける

ミドルボレーを逆クロスにコントロールする

16) 1987年1月号84ページ～85ページ

1月号テーマ「ボレーⅢ・バックボレー」

題目 フォアボレーとの違い

ウイニングボレーに作り変えるテクニック

どのコースが友好的かを判断する

広いと所へ強く、狭いと所へはゆるく打つ

自分のリーチを広く使えるように

バックボレーのステップは上体のひねりを使うこと

17) 1987年1月号86ページ～87ページ

題目 ミスを犯しやすい点の究明

テイクバックの位置はみんな同じで予測を早くする

インパクトのフォアとの位置の違いを知る

肘の伸ばしがパワーを生む

18) 1987年1月号88ページ～89ページ

題目 最も難しい3つのバックボレー

ハイボレーの正しい打ち方は

逆クロスボレーの打ち方は

ボディーショットボレーの打ち方は

3つのぼれーの注意点

19) 1987年2月号68ページ～69ページ

2月号テーマ「ダブルスⅠ」

題目 サーブ&ダッシュ

ダブルスはシングルス以上にダッシュしやすい

直線的なダッシュと曲線的なダッシュ

サービスの種類によって立つ位置を変える



パートナーがいることを忘れないように

20) 1987年2月号70ページ～71ページ

題目 各ポジションでの位置と動き

リターン側にも作が有る、2人でやるからダブルスになる。前衛の動きもサーブ&ダッシュの大切な要素だ。

視覚的な効果を考えてリターン構えを決める

積極的な守りに適したリターン側前衛の位置

21) 1987年2月号73ページ～74ページ

題目 ハーフボレー

重要なポイントで起こるハーフボレー

ハーフボレーもリストワークが決めて

ストローク、ローボレーとのハーフボレーの違い

22) 1987年3月号84ページ～85ページ

3月号テーマ「ダブルスII」

題目 ボレーVS ボレー

ネットへつめても雁行陣

雁行陣と平行陣（並行）の違い

ボレーのコースを変えると陣形の変化が起こる

ダブルスは二人の息が合ったプレーが決めて

動き方はテニスを知ること

23) 1987年3月号86ページ～87ページ

題目 ポーチ

ポーチはパートナーとのコンビネーションプレーで

あることを忘れずに

3つのポーチ！

ストロークポーチ・リターンポーチ・ボレーポーチ

はここが違う

ダブルスの息が合ったプレーは前にいる人が決める

24) 1987年3月号88ページ～89ページ

題目 ポーチ、ロブボレー

ポーチは右足からステップする

ボレー&ボレーになったときに有効なロブボレー

概要 8ヶ月間で各号6ページ(8×6)延べ48ページ

を使い、テニスでのボレーの役目から多彩なテクニ

ックまでを解説している。特に1987年2月号か

らのダブルスでは動き方を中心に写真で解説を行なっている。テクニックは実践で身に着けなくては試合では使えない。日本人の苦手なボレーをあえて細かく分析して解説していった。自分が決めなくてはいけないと思い込みハードヒットしすぎて

## 9. 山田龍彦

「ワングリップテニスにチャレンジしよう！」

スマッシュ、1988年1月号～6月号、日本スポーツ企画出版、1988年

### 1) 1988年1月号100ページ～103ページ

題目 ワングリップテニスの歴史から見た背景（過去の選手）

イギリスを表わした名称でコンチネンタルグリップとかイングリッシュグリップと呼ばれていた。

### 2) 1988年1月号104ページ～105ページ

題目 グリップの知識

5つのポイント

### 3) 1988年2月号76ページ～77ページ

題目 グリップの正しい握り方

グリップを厚く（団子状態に握る）握るのではなく、  
包丁を握るようにすること。

4) 1988年2月号78ページ～79ページ

題目 フォアハンドボレーとバックハンドボレーでは打点  
が違う。

横を向いた状態で肩幅の差が有ることを覚えておく  
こと。

5) 1988年2月号80ページ～81ページ

題目 2つのステップを覚えよう

横のステップと前に出す（ステップイン）ステップ

6) 1988年3月号76ページ～77ページ

題目 イングリッシュグリップ（コンチネンタル）でのグラ  
ンドストロークを実践派に変えよう！

グリップはイースタンだけではない！しかし、正しい  
グリップで握らなくてはいいショットは打てない。

7) 1988年3月号78ページ～79ページ

題目 フォアハンドはスタンスを広く取る。

スウィング（テイクバック・フォアードスウィング・インパクト・フォロースルー・フィニッシュ）はこう打つのだ。

8) 1988年3月号80ページ～81ページ

題目 苦手なバックも、これなら楽に打てる

インパクト前に取り、フォロースルーを長く取ること。

10) 1988年4月号80ページ～81ページ

題目 縦振りのサービス

3つのサービスはトスの違い、しかし、グリップはみな同じコンチネンタルグリップで打つ。

11) 1988年4月号82ページ～83ページ

題目 リストを固定してスウィングでスライスをかける。

連続写真でスウィングの流れを知ろう。

12) 1988年4月号84ページ～85ページ

題目 スライスサービスの5つのポイントを解説。

13) 1988年5月号108ページ～109ページ

題目 オールラウンドグリップでストロークは自由自在

フォアハンドストロークの3種類の注意点を連続写真で細かく解説していく。

14) 1988年5月号110ページ～111ページ

題目 バックハンドストローク（スライス）をマスターすれば完璧

守りのスライスストロークと攻撃のアプローチショットを2種類解説をし、完璧なバックのスライスの連続写真でさらに解説をしていく。

15) 1988年6月号116ページ～117ページ

題目 ボレーのパワーは足の踏み込みで作れ

コースコントロールはワンステップの方向が決めてである。バック側に来たパスの飛びつきは右足のバネを使う。

16) 1988年6月号118ページ～119ページ

題目 サービスダッシュはリターンの予測がカギだ。

サービスのコースによってリターンはある程度決まってくる。その時予測をしっかりとしてネットにつ

めないとパスを抜かれてしまう。大きくスピンとスライスでのリターン予測を解説している。

17) 1988年6月号120ページ～121ページ

題目 ワングリップだからでこそできる！一歩進んだリターンダッシュ。

アプローチショットはストレートに打つのが基本である。そのための足の運びが大切になる。うちかたを連続写真によって解説していき注意点とポイントをまとめてある。

概要 グリッツプはフォアハンドグリッツプのイースタンで握る練習時間が余りに多いために最大に必要とされるコンチネンタルグリッツプが上手く握れていない人が多く見受ける。そこで、コンチネンタルグリッツプはオールラウンドグリッツプとも言われるぐらいにすべてのショットが打てることが知られていないので、すばらしいグリッツプであることとテクニックに欠かせないものであることをサービス・ストローク・ボレーにかけて細かく解説した。

10. 山田龍彦

「 テクニック・SOS 」

スマッシュ、1989年6月号～1989年7月号、

日本スポーツ企画出版、1989年

1) 1989年6月号119ページ

題目 リターンを打つ時の注意点

概要 読者からのリターンを打つ時の注意点について解説をしていく。高さや角度を相手方の位置などを考えて打つように細かく解説している。

2) 1989年7月号147ページ

題目 サーブ&ボレーについて

概要 読者からの質問はサービスが入るがサービスダッシュが上手くいかない。前に出るためのサービスが打てていないことを中心に、詰める場所と返球の位置の予測などを解説している。

11. 山田龍彦

「 Q and A 」

スマッシュ、1989年8月号～10月号、日本スポーツ出版社、1989年



1) 1989年8月号147ページ

題目 イースタンバックハンドグリップの握り方

概要 ソフトテニス出身者が最も悩むグリップである。

正しい握り方を細かく解説している。手のひら感覚を身につけることがラケットと手が一体化しやすいことを解説している。

2) 1989年9月号147ページ

題目 初心者に適したグリップは何か。

概要 ソフトテニスからの転向者が悩むグリップ。基本の3つの種類の解説とイースタングリップの正しい握り方を解説していき、注意点を指摘して理解をしやすくしている。

3) 1989年10月号139ページ

題目 サーブ&ボレーの連携動作がうまくいかない！

概要 ファーストサービスの確実性、すなわち、ローボレーにある。セカンドボレーにつなげないがためにミスが多くなるのだ。

12. 山田龍彦

「 韓 国 テ ニ ス 事 情 」

スマッシュ、1988年10月号78ページ～79ページ

日本スポーツ企画出版社、1988年

1) 1988年10月号78ページ～79ページ

題目 韓国テニス事情

概要 韓国慶妃大学テニス部監督「吉岡慎一」しとの対談により韓国のテニス事情と日本のテニスの現状の比較をいく。日本期待の「松岡修造」選手がカギを握っている話とか、韓国学生（全日本学生庭球日韓交流）のレベルの違いなどの8月の遠征を終わらせて感想を述べている。

13. 山田龍彦

「実践テクニックプラスI」

スマッシュ、1990年3月号～1991年7月号

日本スポーツ企画出版社、1990年、1991年

1) 1990年3月号96ページ～97ページ <NO1>

題目 テクニックにもう一つプラスできるもの

予測（ボールの回転、スピード、コース）が大切になる。

2) 1990年3月号98ページ～101ページ

題目 グリップ7態

各ショットにおけるグリップの分類を解説。

3) 1990年4月号46ページ～47ページ <NO2>

題目 サービスの3要素

スピード・回転・コントロールについて

4) 1990年4月号48ページ～49ページ

題目 サービスの基礎がしっかりしているか

グリップ・肘・トス・膝・足（スタンス）の正しい  
使い方。

5) 1990年4月号50ページ～51ページ

題目 これが噂の「リバースサービス！」

リバースサービスの打ち方の解説。

6) 1990年5月号58ページ～59ページ <NO3>

題目 リターン分析

3要素が大切である。相手の力を利用して打つこと。

7) 1990年5月号60ページ～61ページ

題目 リターンの基礎技術は3つのポイント

グリップ・レディポジション・テイクバックの3つ  
について解説。

8) 1990年5月号62ページ～63ページ

題目 カットショット

カットショットの打ち方について連続写真での解説。

9) 1990年6月号70ページ～71ページ <NO4>

題目 サービスダッシュ

サービスダッシュの分析と目的

10) 1990年6月号72ページ～73ページ

題目 プロ選手（エドバーグ）と比較。

プロの動きは無駄がなくそしてステップの仕方は。

11) 1990年6月号74ページ～75ページ

題目 サービスのコースでダッシュする位置が決まる。

12) 1990年7月号70ページ～71ページ <NO5>

題目 ファーストボレーのステップ

ファーストサービスのポジションはストロークと違う  
ポジションである。如何に予測して早く位置にはいる  
かである。

13) 1990年7月号72ページ～73ページ

題目 ファーストボレーはいろいろな場面がある。

各場面の解説

14) 1990年7月号74ページ～75ページ

題目 ファーストボレーはステップで決まる。

NO STEP・ONE STEP・TOW STEP の紹介と  
解説。

15) 1990年8月号70ページ～71ページ <NO6>

題目 「決め」のショット（セカンドボレー）

決めなくてはいけないボレーがセカンドボレーである。その打つコースが大切であり、早い選択が必要。

16) 1990年8月号72ページ～73ページ

題目 決めのボレーはハイボレーとスマッシュ

17) 1990年8月号74ページ～75ページ

題目 「決め」のショットばかりではない

相手からの返球は思いがけずに返ってくる。その時に慌てずに処理できるテクニック。

18) 1990年9月号46ページ～47ページ <NO7>

題目 グランドストローク前編と

ストロークにも3要素を忘れないようにすること。

19) 1990年9月号48ページ～49ページ

題目 プロのテクニック

イワンレンドル・伊達公子のフォアハンド

エドバーグ・サバチーニのバックハンド

20) 1990年9月号50ページ～51ページ

題目 グランドストロークテクニックプラス1

フォアとバックのショートクロスの打ち方の解説。

21) 1990年10月号54ページ～55ページ <NO8>

題目 グランドストローク後編

次のショットの予測が大切。

22) 1990年10月号56ページ～57ページ

題目 プロに見るショットの打ち方

23) 1990年10月号58ページ～79ページ

題目 セカンドストロークはバックにくる。

24) 1990年11月号54ページ～55ページ <NO9>

題目 フットワーク前編（予測による動き）

- 25) 1990年11月号56ページ～57ページ  
題目 ネットダッシュのフットワーク  
サービス・アプローチ・リターン各ダッシュの注意  
点。(プロに見るショット)
- 26) 1990年11月号58ページ～59ページ  
題目 ネットダッシュは落下地点の予測
- 27) 1990年12月号54ページ～55ページ <NO10>  
題目 フットワーク中篇 (相手に動かされる時)
- 28) 1990年12月号56ページ～57ページ  
題目 ボールによってスタンス (最後の足) が決まる。  
プロに見るスタンスの違い
- 29) 1990年12月号58ページ～59ページ  
題目 スタンスによってどんなボールを打てばいいか。
- 30) 1991年1月号52ページ～53ページ <NO11>  
題目 フットワーク後編 (ボレーのフットワーク)
- 31) 1991年1月号54ページ～55ページ  
題目 エドバーグプロに見るボレーの動き方
- 32) 1991年1月号56ページ～57ページ

題目 ボレーの3つのステップ

ノーステップ・ワンステップ・ツーステップの動き  
方の解説と注意点

33) 1991年2月号58ページ～59ページ <NO12>

題目 スマッシュとサーブスのメカニズム

34) 1991年2月号60ページ～61ページ

題目 同じ縦振りに属するスマッシュとサーブス

35) 1991年2月号62ページ63ページ

題目 ラケットの溜めがポイント

サーブスとスマッシュは同属であり、ラケットの振  
り出しのパワーは肘の曲げであることを解説。

36) 1991年3月号70ページ～71ページ <NO13>

題目 ストロークとボレーのメカニズム

37) 1991年3月号72ページ～73ページ

題目 フォアハンドストロークとバックハンドストローク  
では腰の使い方が全然違う

38) 1991年3月号74ページ～75ページ

題目 ボレーにおける腰の使い方の違い



39) 1991年4月号66ページ67ページ <NO14>

題目 ストレッチの重要性

NO1～NO8まででストレッチの紹介をしていく。注意点と重要性について解説。

40) 1991年5月号62ページ～65ページ <NO15>

題目 トレーニングの重要性

① ボールを使ったウォーミングアップ

② フットワーク強化トレーニング

③ リストアップの3つのトレーニング

概要 実践に使えるテクニックの解説はあまりない。15ヶ月間の長期にわたり初心者から上級者までが後1つたすことでより効果的なショットになりうるヒントを解説していった。プロの連続写真を必ず入れることで比較ができるようにし、従来のコーチだけの写真やプロだけの写真ではなく織り交ぜることで効果が大きいと思われる。

15ヶ月延べ90ページの長期連載は私にとって大変勉強になった。

14. 山田龍彦

「知っているようで知らない・テニスの基礎知識」

スマッシュ、1991年12月号～1992年11月号

日本スポーツ企画出版社、1991年、1992年

1) 1991年12月号65ページ <N01>

題目 サービス編Ⅰ

- ① サービスは全部で何種類あるのか？
- ② 各種のサービスはトスのタイミングが違うのか？

2) 1992年1月号65ページ <N02>

題目 サービス編Ⅱ

- ① スピンやスライスを打つとコントロールがつかないのは回転が少ないからか？
- ② どのサービスから覚えたらよいか？

3) 1992年2月号65ページ <N03>

題目 サービス編Ⅲ

- ① ラケットを振り切れれば、ボールにスライス回転がかかるのか？
- ② スピンサービスを打つ時、ラケットを時計の7時の位置から1時の位置に振り抜く方法しかないのか？

4) 1992年3月号67ページ <N04>

題目 サービス編Ⅳ

- ① サービスを打つ時のスタンスは3種類とも同じでいい？
- ② サービスのリストの使い方がよくわからない。

5) 1992年4月号77ページ <N05>

題目 ストローク編Ⅰ

- ① ストロークを打つ時は、オープンスタンスを覚えておけばいいのか。他の2つのスタンスであるクローズドとスクエアは覚える必要はないか？

6) 1992年5月号77ページ <N06>

題目 ストローク編Ⅱ

- ① グラントロークのグリップは1つだけを覚えればよいのか？種類は3種類だけか？

7) 1992年6月号63ページ <N07>

題目 ストローク編Ⅲ

- ① バックハンドストロークは、最初にスライスを覚えるべきか。それともトップスピンを覚えるべきか？

8) 1992年7月号75ページ <N08>

題目 ストローク編Ⅳ

- ① フォアハンドストロークでトップスピンを打つのに最適な  
グリップは何か？

9) 1992年8月号81ページ <N09>

題目 ストローク編Ⅴ

- ① フォアハンドストロークはトップスピンだけで十分か？

10) 1992年9月号67ページ <N010>

題目 ボレー編Ⅰ

- ① ボレーは必ず足を踏み込んで打つべきなのか？（状況によ  
ってはオープスタンスでも構わないのではないか）

11) 1992年10月号57ページ <N011>

題目 ボレー編Ⅱ

- ① ボレーのグリップは何が最適か？（コンチネンタルが絶対に  
いいのか。状況によっては、他のグリップでも構わないのか）

12) 1992年11月号59ページ <N012>

題目 ボレー編Ⅲ

- ① スマッシュすべきボールをハイボレーで処理するのはよく  
ないか？

13) 1992年12月号65ページ <N013>

題目 ボレー編IV

- ① どういう時にボレーを深く打ち、どういう時に角度をつけて打つのか？

14) 1993年1月号59ページ <N014>

題目 ボレー編V

- ① ローボレーを打つ時、ラケット面をオープンにするというのは、どういう意味なのか？

15) 1993年2月号52ページ <N015>

題目 ボレー編VI

- ① ボレーを打つ時のラケットと腕の角度は各ボレーでどれくらいが適切なのか？

16) 1993年3月号60ページ <N016>

題目 ボレー編VII

- ① ソフトテニス(軟式テニス)のボレーは正しくないというが、状況によってはソフトテニスの打ち方でも構わないのではないのか？

17) 1993年4月号60ページ <N017>

題目 ボレー編Ⅷ

- ① ファーストサービスから入れろとよく言われるが、その理由は？ファーストサービスでエースを狙ってはいけないのか？

18) 1993年5月号54ページ <N018>

題目 草トーナメントに参加する・・・その1

- ① 草トーナメントに参加したいのだが、どうすればいいのか教えて欲しい

19) 1993年6月号56ページ <N019>

題目 草トーナメントに参加する・・・その2

- ① 草トーナメントに参加することが決まったら、次に何をするのか？

20) 1993年7月号58ページ <N020>

題目 草トーナメントに参加する・・・その3

- ① 草トーナメントで知っておいたほうがいい基本的なセオリーを教えて欲しい

21) 1993年8月号55ページ <N021>

題目 スマッシュ

① 高くあがったロブをスマッシュできない。どうすれば打てるようになるだろうか？

22) 1993年9月号50ページ <N022>

題目 グランドスマッシュ

① ワンバウンドしたロブを返球する時、どのように処理すればよいのか？

23) 1993年10月号52ページ <N023>

題目 ロブ&パッシングショット編

① 相手にアプローチをうたれた時に、ロブとパッシングショットのどちらを打つべきかの判断の基準を教えてください。

24) 1993年11月号52ページ <N024>

題目 リターン編

① シングルの試合でリターンはどこへ返せば一番よいのか？

概要 2年間にわたりテニスの基本的な常識を知っているようで、いい加減な知識で済ませている人が多い。そこで、読者からの質問に答える形で基本的な各ショットの解説を進め、写真、イラスト、表、図などを盛り込んで解かり易くして

ある。テニス理論は日本テニス協会普及部によるマニュアル化を進めている中で、根本的にベースになっている。初心者以上に上級者の方が古い知識であり、理論がついていない経験的判断が多い。2年間のうちに新しい選手のデビューもあり、テニスは日々進化している。

## 15. 山田龍彦

「ピンチ脱出・チェック&トライ」

スマッシュ、1993年1月号～1994年4月号

日本スポーツ企画出版社、1993年、1994年

### 1) 1993年1月号64ページ～65ページ <N01>

題目 サービス編

- ① サービスが思うように入らない。セカンドサービスもスピンサービスが入らない。相手に攻められないサービスを打つにはどうすればいい？

### 2) 1993年2月号58ページ～59ページ <N02>

題目 リターン編

- ① 攻撃的なリターンが打てない。ただ当てるだけのリターンではない打ち方はないか？



3) 1993年3月号58ページ～59ページ <N03>

題目 ストロークラリー編

- ① ストレートのストロークが安定して入らない。ラリーになったらどうする？

4) 1993年4月号50ページ～51ページ <N04>

題目 スマッシュ編

- ① スマッシュに不安をもっているレベルでネットにつめるべきか、つめないでベースラインにとどまるべきか？

5) 1993年5月号52ページ～53ページ <N05>

題目 ダブルハンドバックハンドストローク編

- ① 両手打ちが安定して入らない。ラリーで相手にバック側に攻められた時にどうする？

6) 1993年6月号55ページ～56ページ <N06>

題目 シングルハンドバックハンドストローク編

- ① シングル（片手）・バックハンドはスライスだけでトップスピンのピンが打てない。相手がバック側にアプローチショットを打ってネットにつかれた時にどうする？

7) 1993年7月号60ページ～61ページ <N07>

題目 ローボレー編・・・その1

- ① ローボレーでミスをする。どうすればネットを越え、しかもベースライン深く入るショットが打てるのか？

8) 1993年8月号60ページ～61ページ <N08>

題目 ローボレー編・・・その2

- ① ローボレーでミスをする。どうすればネットを越え、しかもベースライン深く入るショットが打てるのか？

9) 1993年9月号68ページ～69ページ <N09>

題目 バックハンドボレー編

- ① バックハンドボレーを打つと、必ずミスをしてしまう。どうすれば安定したハイボレーを打つことができるのか？

10) 1993年10月号60ページ～61ページ <N010>

題目 ボレーステップ編

- ① 試合になるスプリットステップをつい忘れてしまう。どうすれば確実にステップを踏むことができるだろうか？

11) 1993年11月号68ページ～69ページ <N011>

題目 ロビング編

① 試合のロブが中途半端で相手のスマッシュの餌食になるか、アウトになる。どうすれば相手に取られないロブを上げることができなのか？

12) 1993年12月号68ページ～69ページ <N012>

題目 ダブルスの動き方

① ダブルスのラリーの時に、どう動いていいかわからない。

ダブルスの動き方で原則のようなものを教えて欲しい。

13) 1994年1月号68ページ～69ページ <N013>

題目 リターン強化練習方法

① リターンミスが多い。安定したリターンを打てるようになる

には、どんな練習方法をすればいいか？

14) 1994年2月号68ページ～69ページ <N014>

題目 スライスショット強化方法

① 片手バックハンドのスライスが上手く打てない。安定したシ

ョットが打てるようになるには、どんな練習方法をすればいいか？

15) 1994年3月号60ページ～61ページ <N015>

題目 雁行陣ダブルスに勝つための練習方法

- ① 雁行陣のダブルスで試合に勝てない。雁行陣に強くなるための練習方法はないですか？

16) 1994年4月号60ページ～61ページ <N016>

題目 ダブルスに勝つための練習方法

- ① ダブルスはパートナーのサービスのバウンドと同時に動くコツ。ポーチなどの前衛の動きのタイミングを教えてください。

概要 1年4ヶ月の長期連載で読者のなかで疑問に多かった項目を各ショットに分類して解説している。原因の現状分析からスタートして、その項目を直すためのトライ項目を記載していき、診断から診療への移行を分かりやすく解説している。

16. 山田龍彦

「3から始まるテニス」、スマッシュ、  
1995年7月号～1996年5月号、日本スポーツ企画出版社、1995年、1996年

1) 1995年7月号87ページ～89ページ <N01>

題目 テニスの環境

- ① テニスコートの3種類
- ② テニスコートの3種類の特徴
- ③ 3種類のコートに適してテニスシューズ

2) 1995年8月号89ページ～91ページ <N02>

題目 ラケットとボールについて

- ① 過去からの3種類のラケット
- ② ボールの種類
- ③ 公認球 (4大会使用球)

3) 1995年9月号87ページ～89ページ <N03>

題目 ゲームの種類について

- ① トーナメントは3つある
- ② トーナメント種目は3つ
- ③ トーナメント3種目の注意すべきポイント

4) 1995年10月号89ページ～91ページ <N04>

題目 ストロークとグリップ

- ① グランドストロークの3要素
- ② グリップの種類と握り方
- ③ グリップの特性

5) 1995年11月号93ページ～95ページ <N05>

題目 スタンスとフットワーク

- ① フォアハンドのスタンス
- ② グランドストロークのフットワーク
- ③ バックハンドのスタンスとフットワーク

6) 1995年12月号 93ページ～95ページ <N06>

題目 スウィング I

- ① 3つのスウィングとボールの回転
- ② ボールを打つまでの3つの動き
- ③ インパクトからの3つの動き

8) 1996年1月号89ページ～91ページ <N07>

題目 バックハンドストローク

- ① 3つのスウィングの違いを知ろう
- ② ボールを打つまでの3つの動き
- ③ インパクトからの3つの動き

9) 1996年2月号89ページ～91ページ <N08>

題目 サービス (前編)

- ① サービスの成り立ち
- ② サービスは3種類ある
- ③ サービスに使う3つのグリップ

10) 1996年3月号75ページ～77ページ <N09>

題目 サービス (後編)

- ① 3つのサービスのトスとスタンス
- ② こうして3つを打ち分ける
- ③ サービスを打つ3つのポジション

11) 1996年4月号75ページ～77ページ <N010>

題目 ボレー (前編)

- ① ボレーの種類と3つの要素
- ② ボレーとストロークの3つの違いを知ろう
- ③ ボレーとストロークの違い

11) 1996年5月号79ページ～81ページ <N011>

題目 ボレー (後編)

- ① 3つのボレーとそのスウィング
- ② ポイントにつながる3つのボレー
- ③ ボレーの3つのステップ

概要 テニスの 3 から構成されている。サーフェースから始まり、コート、シューズ、ボール、ラケットそして、大切な各ショットは分類していくと 3 をベースに組み立てられている。約 1 年間で 33 ページにわたり、かなり細かく解説を行なった。

## 17. 山田龍彦

「ダブルス戦術・ダブルス勝利への道」

スマッシュ、2001年5月号、日本スポーツ企画出版社、

2001年中綴じ

### 1) 2001年5月号67ページ～82ページ

題目 ダブルス戦術練習

① 68ページ・ショット&コンビネーション

② 69ページ・サービス&リターン

③ 70ページ～71ページ・スピンボレー

アングルボレー

④ 72ページ～73ページ・アプローチショット①、②

⑤ 74ページ～76ページ・サーブ&ボレー

⑥ 77ページ～78ページ・リターン&ダッシュ

⑦ 79ページ・リターンロブ



⑧ 80ページ～82ページ・タテの雁行陣①、②、③

概要 草トーナメント出場するレベルで知っておかなくてはいけない戦術の練習方法とその注意点を解説し、最後にとっておきの戦術である「タテの雁行陣」の紹介をしている。雁行陣からスタートしなくてはいけないと思っている人が多い、しかし、ルールでは何処の立っていてもよいのだ。相手に意表をつく作戦として紹介した。

## 学術論文

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
昭和大学富士吉田教育部紀要 「一般学生における握力およびスポーツ経験とテニスレベルとの関係」	共著	2008年12月	昭和大学富士吉田教育部紀要第3巻	一般学生の体育実技受講者において実験データでテニス実技において握力とスポーツ経験がテニスレベルに関係するか検討した。
昭和大学富士吉田教育部紀要 「初心者における握力とサービススピードの関係」	共著	2009年12月	昭和大学富士吉田教育部紀要第4巻	40歳以上から60歳以上の男女の初心者のテニス受講者に対して、サービススピードと握力とに相関関係が認められるかを検討した。男子は40歳以上59歳までに相関関係が認められ、女子では40歳以上49歳までに相関関係が認められた。

テニスの科学第18巻 「初心者における握力とサービススピードの関係」	共著	2010年6月	第22回日本テニス学会	初心者の公開講座において40歳以上から60歳以上のせいとについての握力とサービススピードについて
昭和大学富士吉田教育部紀要 「活動計によるテニスレッスンの運動量」	共著	2010年12月	昭和大学富士吉田教育部紀要第5巻	運動量計によるテニスレッスンの運動量を測定した時の多人数における運動量の低下を防ぎある程度のレッスンを維持したカリキュラムのレッスンが行えるかの検証
テニスの科学第19巻 「活動計によるテニスレッスンの運動強度について」	共著	2011年2月	第23回日本テニス学会	運動量計による運動強度について検証し、練習人数が多人数になったときでもある程度の運動強度を保ちながら練習を進めることが可能である。
東京体育学会誌1巻 「テニスのフォアハンドストローク動作に及ぼす打点位置の影響」	共著	2010年8月	第東京体育学会1回 日本体育学会東京支部 第37回学会大会	近年、高い打点から打ち込む打法が主流になってきている。そこで打点の違いによる打球速度と身体各部の移動速度、打点位置別にみた速度曲線、ラケットヘッドおよび上肢核関節の高さの変位について検討を行った。
昭和大学富士吉田教育部紀要 「2008年度および2009年度の（昭和大学）学生の体力について」	共著	2009年12月	昭和大学富士吉田教育部紀要第5巻	昭和大学の学生（1学年前学科）約各年度約600名が前寮生活での共同生活を送りながら勉学等に励んでいます。2006年度および2007年度においても同様な体力測定をおこない学生の変化等を検討してきた第2弾である。

教育研究業績一覧

1. 昭和大学富士吉田教育部紀要第3巻

一般学生を対象として体育の授業において最終回に左右の握力を測定し、また、サービススピードをフォアサイドとバックサイドにおいて5回づつ打ち最高速度を測った。また、35年間のプローチとしての経験と日本テニス協会が昭和50年から公認指導員制度をつくりテニスの普及を進めてきたとき、テニス協会の公認指導員検定委員として資格審査を行った経験からテニスレベル基準表（山田試案）を作成し評価した。

テニスの初体験者および初心者を含む一般学生においてテニス経験の有無に関係なく握力はサービススピードに影響を及ぼすことが明らかになり、また握力及びテニスレベルと技術テスト成績との間には有意な相関関係が認められなかった。しかし、テニスレベルとサービススピードとの間には有意な相関関係が認められた。これらのことから、テニス初心者における握力及びテニスレベルはサービススピードに反映されるが、ボールを狙った場所に打つようなテニス技術を説明できる因子ではないことが明らかになった。

## 2. 昭和大学富士吉田教育部紀要第4巻

先行研究等では学生を対象にした実験や測定研究がほとんどである。そこで、本研究では社会人の生涯学習における初心者コースを受講した生徒を対象として、テニスのサービススピードと握力との関連性について、年齢及び性差の観点から検討すること、テニストレーニングを継続した受講者の1年間のテニストレーニングの効果について検討したところ、以下のことが明らかになった。

1. 40歳以上から60歳以上の男女においても握力とサービススピードとの間に有意な相関関係が認められた。
2. 握力とサービススピードとの関係性について年代別にみると、男子では40歳～59歳、女子では40歳代において有意な関係が認められ、それ以上の高年齢では一様な関係は認められなかった。
3. 40歳以上であっても継続的テニストレーニングにより技術力の向上（サービススピード）が十分に認められた。また、<sup>7)</sup>日本人の平均握力統計では特に男子で40歳から低下が見られると報告があったが、40歳以上の男女ともに握力の維持が認められた。

## 3. 昭和大学富士吉田教育部紀要第5巻

先行研究ではアクティマーカーを使用したインドアテニススクールにおいての測定結果についての論文が何点か発表されています。そこで、本研究ではパナソニック社製の同じアクティマーカーを利用して練習カリキュラム別に運動量計により測定することで運動量を明らかにし、15名～23名の多人数のレッスン内容の組み立てにおいて工夫することでその運動量がどのように変化したかを検討することを目的とし、以下の結果が得られた。

1. 平均 MET s に関しては授業参加人数が 15 名～23 名であっても有意差がなかった。
2. 練習内容別に平均 MET s を検討した場合ボレー&ストローク練習が高い値を示した。
3. ウォーミングアップ群である打ちっぱなしのストローク練習が比較的高い値を示した。中でもクロス打ちが高い値であった。
4. 指導上、運動量確保に重点をおいての練習内容の工夫は、動くことの注意を絶えず行っていくことである

以上の結果から、多人数の授業であってもできる限り指導者が球出しをしながらアドバイスをを行うことである程度の運動量を確保できことが推測された。

今後は一般学生を対象にした場合や各練習種目別に細かいデータの検証が必要であると考えられる。

## II. 論文 (研究学術論文)

氏 名 山 田 龍

彦 ④

発行・発表年 年 月	論文名	研究者名	発行所・雑誌名 巻数・(号数)・頁数	査読の有無	備考
2008年 12月	「一般学生における握力およびスポーツ経験とテニスレベルとの関係」	山田龍彦・角田直也・弓桁亮介・堀川浩之	昭和大学富士吉田教 育部紀要第3巻	無	
2009年 12月	「初心者における握力とサーブスピードの関係」	山田龍彦・角田直也・弓桁亮介・堀川浩之	昭和大学富士吉田教 育部紀要第4巻	無	
2010年 12月	「活動計によるテニスレッスンの運動量」	山田龍彦・角田直也・弓桁亮介・堀川浩之・中山裕	昭和大学富士吉田教 育部紀要第5巻	無	

2010年 6月	「初心者における握力とサービススピードの関係」	山田龍彦・角田直也・弓 桁亮介・堀川浩之	第22回日本テニス学 会 テニスの科学 第18 巻	無	
2010年 12月	「活動計によるテニスレッスンの運動強度について」	山田龍彦・角田直也・弓 桁亮介・堀川浩之・中山 裕	第23回日本テニス学 会 テニスの科学 第19 巻	無	
2010年 8月	「テニスのフォアハンドストローク動作に及ぼす打点位置の影響」	山崎猛・山田龍彦・田中 重陽・熊川大介・角田直 也	第東京体育学会1回 日本体育学会東京支部 第37回学会大会	有	
2010年 12月	「2008年度および2009年度の(昭和大学)学生の体力について」	弓桁亮介・堀川浩之・青 葉貴明・山田龍彦	昭和大学富士吉田教 育部紀要第5巻	無	
2011年 12月	「グレーディングスピードとテニス技術の関係について」-握力・グランドストローク・サービススピードからの検討	山田龍彦・鈴木恵太・角 田直也・弓桁亮介・堀川 浩之・	昭和大学富士吉田教 育部紀要第6巻	無	
年 月					

#### 学会発表

平成23年12月

第23回テニス学会 口頭発表 鈴木恵太・山田龍彦

テニスの科学大20巻

「テニスにおける異なるグレーディングでのフォアハンドストロークの変化特性」 P72～P73

平成23年12月

第23回テニス学会 口頭発表 山田龍彦・鈴木恵太

テニスの科学大20巻

「グレーディングスピードとテニス技術の関係について -握力・グランドストローク・サービスからの検討-」 P74～P75

平成24年12月

第24回テニス学会 口頭発表 山田龍彦

テニスの科学大 21 巻

「シニアのための新しいゲームの紹介及び検証 – 6 人でプレーするテニスリーについて –」 P 7 2 ~ P 7 3

平成 25 年 12 月

第 25 回テニス学会 口頭発表 山田龍彦・鈴木恵太

テニスの科学大 22 巻

「テニスのストロークコントロールに及ぼす主観的強度の影響 – グランドストロークからの検討 –」 P 102 ~ P 103

平成 26 年 12 月

第 26 回テニス学会 口頭発表 山田龍彦・鈴木恵太

テニスの科学大 23 巻

「授業実施時の運動効果について – ストレスの軽減がテニス授業において期待できるか –」 P 64 ~ P 65

平成 26 年 9 月

第 11 回日本ウエルネス学会

口頭発表 山田龍彦。佐古隆之

「総合型スポーツクラブは市民の運動起爆剤となれるか？」

平成 27 年 9 月

第 12 回日本ウエルネス学会

口頭発表 山田龍彦。佐古隆之

「狛江市総合型スポーツ・文化クラブ現状と変化 – ウエルネス的[こま〇クラブ]を目指して –」

平成 27 年 12 月

第 27 回テニス学会 口頭発表 山田龍彦

テニスの科学大 24 巻

「日本体育協会公認指導員制度の現状と問題点の提言 – 日体協公認のテニス指導者について –」 P 64 ~ P 65

平成 28 年 6 月 25 日

第 28 回テニス学会 口頭発表 山田龍彦

## 車いすテニスの現状と今後の課題

平成28年9月

第13回日本ウエルネス学会

口頭発表 山田龍彦。佐古隆之

「狛江市総合型スポーツ・文化クラブ現状と変化ー羽村市総合型スポーツクラブはむすぼとの比較ー」

### 講演会実績

1. 2008年10月

狛江市総合型地域スポーツクラブ設立検討会 市内会議室  
「総合型地域スポーツクラブの実態」

2. 2011年2月6日

スポーツ指導者協議会 スポーツ指導者研修会 オリセン  
「学校体育と社会体育 ースポーツ指導者の役割ー」

3. 2011年2月6日

スポーツ指導者協議会 スポーツ指導者研修会 オリセン  
「学校体育と社会体育 ースポーツ指導者の役割ー」

4. 2012年7月17日

スポーツ指導者協議会 スポーツ指導者勉強会 オリセン  
「指導者のためのバイオメカニクスとストレッチ」

5. 2012年10月12日

東京都体育協会 スポーツ指導者研修会 オリセン  
「知っておきたいバイオメカニクスとストレッチ」

6. 2014年1月19日

東京都体育協会 スポーツ指導者研修会 オリセン  
「スポーツ界からの暴力の根絶」

7. 2014年2月1日

東京都体育協会　スポーツ指導者研修会　オリセン  
「スポーツ界からの暴力の根絶ー体罰と暴力の違いそして指導者の資質  
の向上ー」

8. 2014年9月23日

東京都体育協会　スポーツ指導者研修会　オリセン  
「指導者のモラルと倫理について　ースポーツ界からの暴力と体罰の根絶」

9. 2015年10月4日

スポーツ指導者協議会　スポーツ指導者研修会　オリセン  
「レジスタンストレーニングとは？チューブトレーニングについての講習」

10. 2016年2月14日

羽村市教育委員会　羽村市スポーツリーダー養成講習会  
羽村市スポーツセンター  
「暴力・ハラスメント　ー指導者の暴力と体罰の根絶」

11. 2016年8月14日

スポーツ指導者協議会　スポーツ指導者研修会　オリセン  
「指導者のモラルと倫理について　ースポーツ界からの暴力と体罰の根絶」